

## 第1回豊田市商業委員会会議録

【日時】 平成18年5月30日(火) 午後1時30分～3時20分

【場所】 豊田市役所 南庁舎5階 52会議室

【出席者】

委員

加藤 勇夫〔愛知学院大学商学部教授〕  
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕  
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕  
新田 都子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕  
松井 栄子〔足助観光協会〕  
近藤 孝氏〔自営業〕

事務局

三宅 清巳〔豊田市産業部専門監〕  
鈴木 辰吉〔豊田市産業部商業観光課課長〕  
小副川辰夫〔豊田市産業部商業観光課主幹〕  
兼子 雅彦〔豊田市産業部商業観光課係長〕  
太田 信人〔豊田市産業部商業観光課主査〕

傍聴者

なし

【次第】

- 1 開会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
  - (1)平成17年度商業活性化推進交付金実績報告及び平成18年度商業活性化推進交付金事業計画について
  - (2)経営革新モデル店舗支援事業対象事業者について
- 5 報告事項
  - (1)まちづくり3法改正にかかる情報について
  - (2)愛知県がんばる商店街推進事業費補助金について
  - (3)商店街活性化計画策定状況について
  - (4)平成17年度商業団体補助金事業評価について
- 6 閉会

閉会后、桜町本通り商店街(振)のファサード現地視察実施

参加者：河木副委員長、杉戸委員、新田委員、松井委員  
小副川、太田

## 【会議録（要約表記）】

### 1 開会

事務局より、平成18年度第1回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

### 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

### 3 委員長あいさつ

加藤勇夫委員長から、あいさつが行われた。

### 4 審議事項

#### (1) 平成17年度商業活性化推進交付金実績報告及び平成18年度商業活性化推進交付金事業計画について

豊田まちづくり(株)より、資料1「商業活性化推進交付金平成17年度実績報告、平成18年度事業計画」に基づき説明があり、審議の結果、委員会として認めることとなった。

#### 【主な質疑応答】

**委員** 4点質問したい。

一つ目は、ショッピングモール核推進事業の中での調査で、郊外の大店の方が優勢であるということだが、個店のMDを再構築するだけで良くなるという可能性が見出せるかどうかは疑問。MDよりも客層がどうかというところで新しい展開をみせられないかどうか。

二つ目は、小さい子ども連れの層に注目して、小さい子供向けの機能が街中にもあると思うので、それと繋げた展開ができないかということを検討していただけたらと思う。

三つ目は、空き店舗の再生とチャレンジショップ事業の使い分けがよく分からないので再度ご説明いただきたい。

最後は、コンビニエンス機能を中心市街地の商店街や商店主でやっに行けないかということ。コンビニエンスストアは宅配などの窓口サービスも取り入れて事業展開をしている。高齢化社会を迎える世の中で、こういったサービスは必要になってくると思う。また、そういった役割こそ本来商店街が担っていた部分だと思う。それをコンビニエンスストアが先取りしている状態。そういった動きを商店街に取り込んでいけないかどうかを聞きたい。

**まちづくり** 一つ目の質問についてだが、現在のT-FACEは団塊ジュニア世代を意識したMDになっている。豊田市はヤング層の多い街。もっと言えば独身者が多い。ただ、そういった年齢層は実は郊外型の大店へ流れている。そうすると今一番拾いたい層は団塊の世代。大店間でも自分達のやってきたMDが消費者ニーズに照らし合わせるとちょっと違うとい

うことを話しており、現在の団塊ジュニア世代のマーケットも残しつつMDを充実させていきたいと考えている。

**委員** 団塊ジュニア世代は名古屋へ行くのではないのか？

**まちづくり** ファミリー世代は三好のアイモール。ヤング層は確かに名古屋に行く傾向もある。

**委員** 中年齢層で連れ立って中心市街地へ行ってもどこに何があるかよくわからないから結局帰ってきてしまう。楽しいお店が無い。

**まちづくり** 松坂屋も昨年2店舗ほどミセス向けのテナントを入れたがそれだけでも全然違う。店側がどういう世代の方々に来て頂きたいかを考えることは大切だと思う。

視察を交付金対応にしている点にだが、会社側も負担があり、きちんとしたテーマに沿って実施している。報告書も作成している。いい加減な使い方はしていない。

二つ目の小さな子ども連れの層に相手に対する意見については、ご提案をいただいたということで受けたい。

三つ目の空き店舗とチャレンジショップの関係だが、この2つは全く同じではない。チャレンジショップ卒業生には、独立するからには失敗してもらっても困るということで、本人が納得する空き店舗などで開業してもらっている。空き店舗だから押し込んでしまおうとは考えていない。

最後のコンビニエンス機能について。機能としては街に必要な昨日だと思う。コンビニを誘致していくかどうかということをご提案とし受け取る。いずれにしても生活サービスは、マンションが増えてきていることから必要な機能であることは間違いない。

**委員** 今、実はイギリス人の友人とお店を出そうと考えている。豊田市の中心部に来たが、車の通りが少ない。これでは看板を出してもコマースャルにならない。品揃えとしては自信があるが。

**委員** 交通の問題に関しては豊田市として考えられているのは、車を排除するということ。車が増えれば、道路を広くしたり、駐車場を作ることになり、かえってスプロールを起こす。ドイツのミュンヘンは、昔は車を入れていたが、今は車を入れない施策を展開している。豊田市の中心部の面積はそんなに広くない。そこに多くの道を作ったり駐車場を作って、果たして歩きやすい道になるのかが疑問。

現在、中心部で老人を対象としたマンションが建設されている。そういった高齢者対応のマンションは増えていく可能性がある。ライフスタイルも大きく変わる可能性がある。郊外でコンビニに行こうと思ったら車が必要だが、中心市街地にコンビニ機能や病院機能は今以上に必要になってくる。

**委員** 市としてそういったライフスタイルの変化に関しては何か考えはあるのか？

**事務局** まちづくり3法の改正の中で、中心市街地活性化基本計画を作り直す必要がある。現在の基本計画は平成12年度に国に提出したものの

だが、その計画を作る段階では、人が歩く街を目指すこととしていた。それを国に提出した途端、そごうやS A T Yが撤退してしまった。そこで緊急活性化対策という事で、駐車場を整備することになった。つまり、車を逆に入れるということになった。この時に市民へ意見を聞いたら、車で行けないところには行かない、という意見をいただいたので駐車場を整備することとなった。フリーパークの整備も実施した。将来的には車を排除した歩く街を目指すビジョンはあるが、そうも言っていない、ということもあり、今は過渡期と言える。

**委員** 足助に住む人は車が無いと生活できない。自分が高齢になって車に乗れなくなったと考えると、近くに病院だとかの機能がある街中に暮らして、時々田舎に帰るという生活がいいかと思う。

**委員** 別の意見だが、情報の宣伝方法だが、沢山の情報を少ない回数で出すのか、少ない情報を何回も継続して出すのか、ということを少し考えたほうがいいかと思う。イベントの開催も同様で、今は年に数回大きなイベントを組んでいるようだが、小さなイベントを定期的実施した方が実は効果的かもしれない。

**委員** まちなか宣伝会議をお願いしているのが、まちパワーフェスタ以外のふれ愛フェスタや八日市などのイベントを一元化して管理できないか、ということ。

**委員** 中学生や高校生が健全に歩けるイベントがいい。

**委員** 最近中心市街地は怖い状態。

**委員** 安心・安全ということも大事なテーマ。

**委員** また別の意見だが、トヨタ自動車に勤める人がどこにお金を落とししているかを調べられないか？かなりの所得のある層がいるはず。

## (2) 経営革新モデル店舗支援事業対象事業者について

事務局より、資料2「経営革新モデル店舗支援事業対象事業者について」に基づき報告した。

特に意見なし

## 5 報告事項

### (1) まちづくり3法改正にかかる情報について

事務局より、資料2「まちづくり3法改正にかかる情報について」に基づき報告した。

特に意見なし

### (2) 愛知県がんばる商店街推進事業費補助金について

事務局より、資料3「愛知県がんばる商店街推進事業費補助金について」に基づき報告した。

【主な質疑応答】

- 委員 豊田市のがんばる商店街応援プランに似ているが。  
事務局 新商業施策検討委員会のオブザーバーとして愛知県の村瀬主幹が参加されていた。

(3) 商店街活性化計画策定状況について

事務局より、資料4「商店街活性化計画策定状況について」に基づき報告した。

意見なし。

(4) 平成17年度商業団体補助金事業評価について

事務局より、資料5「平成17年度商業団体補助金事業評価一覧」に基づき報告した。

【主な質疑応答】

- 委員 参考評価ということだが、この評価は各商店街に報告するのか？  
事務局 希望する商店街には話す。商店街への補助金説明会の場でもそのように話している。  
委員 評価は絶対評価か？  
事務局 絶対評価。平成19年度の最終評価までには担当者も訓練して各商店街が納得できる評価方法で発表する。  
委員 事業実施前の評価を得点の合計に反映されているのはおかしいのでは？評価としては事業の結果を評価するべきだと思う。  
委員 事業計画の作文が上手な商店街は成果が出ていなくても得点が高くなる可能性はある。  
委員 前年度の事業評価に基づいて再度計画を見直して次年度の事業計画に反映させるということであれば意義があると思う。  
事務局 貴重な意見として頂戴する。

## 6 閉会

事務局 今年度第1回目の商業振興委員会ということでそれぞれの立場から貴重な意見をいただいた。豊田市の中心市街地は面積は無いが、それを知恵と工夫で対応していかななくてはならない。

豊田市は合併前から各町村も含めて商店街大事にしている街。まちづくりというのは商店街、自治区が中心となって動いていかないといけない部分がある。これからの高齢化社会を迎える上で、安心・安全が加われば本当に住みやすい街になるんじゃないかと思う。

今日の資料を見るとそれぞれの商店街が活性化計画ということで、必要な支援を受けながら前向きに取り組もうとされている。これに事業評

価の反省を含めて次につなげられるイベントなどを展開できたら本当にいい街になるのではないかと思う。

次回 第2回商業振興委員会開催予定日 平成18年9月26日(火)  
(第3回 " 平成19年1月30日(火))

**閉会后、桜町本通り商店街(振)のファサード整備の現地視察を実施**

以上